

■私のカンボジア支援 その5(2002年3月19日)

近隣・近郷の村から学校から、2000人も集まったトモケオ小学校贈呈式

SAJの第1号校舎・トモケオ小学校が2002年2月末に完成しました。村の長老達の熱意で、プノンペンから遠く離れたカンボジアで一番貧しい州・ポーサット州に完成しました。

「まさかこんな貧しい田舎の州に近代的な鉄筋コンクリート製の5教室の校舎が出来るとは」、州知事以下村人も信じられなかったそうです。州知事は、1人でそとトモケオ小に来て、レンガが積まれた校舎の壁を見て「本当に校舎が出来るとだ！」と実感したそうです。

待望の校舎が完成しカンボジア政府への贈呈式の日を長老たちと検討しました。お寺のお坊さんの占いで3月19日に決まりました。長老たちは「贈呈式には政府の長官も州知事も来る。近隣近郷の村や学校からも2000人が立派な校舎を見に来る。舞台もテントも必要だ。」

大きなテント(4張り)に来賓用の舞台、バッテリーで動かすマイクと大音量のスピーカー。2000人分のプラスチックの椅子が用意出来ました。

贈呈式当日、朝4時にプノンペンのホテルを出て、凸凹の国道を4時間かけてトモケオ小学校に着きました。道路から学校に行くまでの道は、人、人、人の行列です。

朝8時、贈呈式が始まりました。

壇上には内務省・サッカー長官、日本大使館・篠原公使、ポーサット州知事、州教育長、職員、近隣近郷の村長等がざらりと並んでいます。

テントにはトモケオ村の全住人と生徒が並んでいます。その誇らしそうな顔・顔・顔。近隣近郷から2時間もかけて歩いてきた村人、学校の生徒も居ました。

挨拶が始まりました。

州知事は、「ポーサット州は貧しいです。この貧しさから抜け出すには、教育が必要です。このように立派な校舎が出来て、生徒も大勢通ってくるでしょう。ここに居る父母の皆さん、子どもを学校に通わせてください。ポーサット州を教育熱心な州にしましょう。そしてポーサット州を豊かな州にしましょう。私も力を尽くします。」

プノンペンから贈呈式に駆けつけてくれたプロム・サッカー内務省長官は、「日本の人々の支援で、こんなに立派な校舎が出来た。カンボジア中を探しても、こんな立派な校舎は少ない。私は、プノンペンから遠く離れた辺鄙な田舎のトモケオ村に、こんなに立派な校舎が出来たことをうれしく思う。貧しい村だからこそ教育を盛んにして優秀な人材を出してほしい。それがカンボジアの発展につながる。」と話してくれました。

日本大使館篠原公使は、流暢なクメール語で、「日本も昔は貧しかった。日本の親はご飯を食べなくても、子どもたちを学校に通わせた。子どもたちは熱心に勉強して、高校や大学に通った。教育と日本人の勤勉さが今日の豊かな日本をつくりました。皆さんも勉強して下さい。」

会場の片隅に、長老たちの満足な笑顔がありました。2時間続いた式が終わりました。

隣りのお寺では、来賓も残って、村のお祭りが始まりました。

お寺では村の女子総出で朝から準備していた炊き出しが揃い、広い本堂で食事が始まりました。近隣の村の人々もお相伴にあずかりました。何処からか楽隊も来て笛太鼓も賑やかに民謡を奏で、贈呈式会場のスピーカーからは大音量の音楽も流れ始め、人々も浮かれて踊りました。



贈呈式に出席してくれたサッカー長官(中央) 篠原公使(左)ポーサット州知事(右)



近隣近郷の村から贈呈式に集まった生徒たち

◇ご支援をお願いいたします。

教育環境を整え、貧しい子に教育の機会を提供し、先生に指導力の向上のお手伝いをしています。SSFCの活動へのご支援をお願いいたします。寄附金のお振込みは、右記からお願いいたします。

■三菱UFJ銀行 神保町支店  
口座番号(普) 0968555  
■ゆうちょ銀行 00110-2-767497  
口座名: 公益社団法人 SSFカンボジア

詳しい解説・近況報告はSSFCホームページに掲載(ホームページ: <http://www.ssf.or.jp/>) しております。ぜひご覧ください。右のQRコードからもアクセスできます。お問い合わせは、TEL: 03-6272-5717 FAX: 03-3511-5019 E-mail: info@ssf.or.jp



※活動内容の報告(バックナンバー)はホームページ「<http://www.ssf.or.jp/>」にも掲載されますので、ぜひご覧ください。



ញឹម によにゅむは、カンボジア語で「笑顔」という意味です。  
**によにゅむ通信**  
2018年11月号 No.11

公益社団法人  
Sumita Scholarship Foundation, Cambodia  
(SSFC) 代表理事 住田平吉  
〒101-0051  
東京都千代田区神田神保町2-44  
第二石坂ビル502  
TEL: 03-6272-5717 FAX: 03-3511-5019  
E-mail: info@ssf.or.jp  
ホームページ: <http://www.ssf.or.jp/>

◆アラン・ランサイ中学校(シュムリアップ州)で表彰式と奨学金受給者の発表式が行われました。

11月7日に支援者様を迎えて、2018—2019スクール年度(2018.11—2019.10)の奨学金受給者の発表と前年度の優秀賞・努力賞生徒の表彰・授賞式を行いました。

郡教育長・地区長・村長にも参加いただいて、SSFCの活動と意欲のある先生・学習レベルが高い生徒の様子を見ていただきました。今年の1年間は生徒間の競争も激しかったと先生から聞きました。SSFCの支援が良い結果を生んでいます。

◆ソツ・ティアリー(シュムリアップ州バツコン郡教育長)の話

「勉強すれば貧しさから抜け出すことができます。ランサイ中学の皆さんは優秀です。頑張って勉強して下さい。奨学金をもらえた皆さん、勉強が続けられて良かったですね。また、優秀賞や努力賞をもらえた生徒さんも、良く頑張りましたね。ランサイ中学生は皆良く勉強します。SSFCの優秀賞や努力賞は誰にももらえるチャンスがあります。皆さん頑張って勉強して下さい。」

◆2018—2019年度・奨学金給付生徒が決まりました

今年2018年11月の新学期からランサイ中学校に加えて、ヴィボケイ中学校の生徒にも奨学金給付を始めました。中学1～3年生の男女8人をSSFCと先生たちとで家庭を訪問して保護者に会い調査をして決定しました。

- ◇アラン・ランサイ中学校(シュムリアップ州)  
継続は、①ソン・ジュン(中3)と、フンセン・スワイトム校の②ピツ・ウィ(高1)③ラウ・ディ(高2)④ニューン・ナイ(高2)の4名  
新規は、①ピップ・サ・アエン(中3)②カウ・ティ(中3)  
③ハーワン・シン(中1)④チューン・ソ・ボワン(中1)の4名
- ◇スレイヴィボケイ中学校(シュムリアップ州)  
①リム・ソック(中3)②ジェット・ピー(中3)③コーン・ティム(中2)  
④コン・サイ(中2)⑤ウーン・ソペア(中2)⑥スーン・ダン(中1)  
⑦ピー・スレイトウ(中1)⑧ケツ・ヌーン(中1)で全員新規で8名

◆スオート・ドーン(トライ村村長48才)の話

「ヴィボケイ中の生徒を助けてくれてありがとう！」

村長の仕事は、①村の人口を調べ(年齢別・年代別・職業別)②村人の生活状態のリストを作る。③出稼ぎに行く家を調べたり、村の要望や困っている事を郡長に報告することだ。

村には293家庭があり、その80%はやっとご飯が食べられる家庭。後の20%は極貧の生活をしている。村人の多くの人は出稼ぎに行く。私は田を3ha持っているので生活は出来るが、村長の給料(昔のままの6\$~15\$)だけでは難しい。

村は設備の設置料金が払えないので電気を引くことも出来ない。私は小学校3年まで学校に通ったが、ポルポトの戦争で学校が無くなった。村の子どもたちには学校に行きたくて欲しい。教育を受けさせたいが、村人はお金がない。SSFCが奨学金を出してくれる事は、大変ありがたい。

勉強をしたい生徒の励みになるし、夢を持たせてくれる。是非多くの生徒を助けてほしい。お願いします。何か困ったことがあれば知らせて下さい。協力します。



優秀賞・努力賞の授賞式



ソツ・ティアリー郡教育長あいさつ



奨学金受給・各賞受賞に喜ぶ生徒たち



「ありがとうございます。勉強が続けられず！一生懸命勉強します！」  
受賞生徒代表のお礼の言葉



お米や自転車、文具なども給付されます



トライ村スオート・ドーン村長

奨学金受給生徒からの話を紹介します。

※学年は取材時です。

■ソン・ジュン（女・アラン・ランサイ中学2年・18才）

私は奨学金をもらえたから、今日まで勉強を続けられたと思っている。SSFCには心から感謝している。

私の家庭は勉強できる環境ではない。学校に払うお金も毎月奨学金でもらう10\$を貯めて、お祖母さんに預けて払ってきた。

父母がアルコール中毒で、以前に持っていた土地を売ったお金は、新しい家を建てたのとお酒代に使って無くなってしまった。

私にお金をくれないので、ご飯を食べられない時も多くあった。

中学に入学した時から「学校をやめろ！出稼ぎに行け！」と父母に言われ続けてきた。

私は何時も断ってきた。父母と戦ってきた。もう18才、中学3年になるので父母を怖くはない。

今は母が病気で「私の面倒を見ろ！」といつも言って、私を離さない。自分の母だから面倒を見ないといけないのかと迷っている。

今は父母の家にいるが、ご飯をいつもは食べられない。

私の本当の気持ちは、お祖母さんと住みたい。小さい時からお祖母さんと住んでいるので、安心して勉強出来る。静かな家で勉強出来るし、自分の部屋もあり、お祖母さんの面倒もみられるから。

◇私の1年間の成長

成績は、1年間を通して学年で16番 得意教科は、生物と地学。

努力している事は、父母の事を考えると暗い気持ちになり泣けてしまうので、学校や友達の前では明るく振舞うようにしている。友達を大事にしている。心を強く持つようにしている。

将来の夢は、「服のデザイナー」になること。



ソン・ジュン

■ピツ・ウィ（女・アラン・ランサイ中学3年・17才）

私は奨学金をもらえるようになった時は、言葉に言えないほど嬉しかった。心から嬉しかった。SSFCからお米やお金、制服等を買ってもらった時は、嬉しくて泣いてしまった。

今もありがたく思って、勉強も頑張っている。勉強は学年で1番を取っている。生徒会の会長になって、皆のため、学校を良くするために頑張ってきた。

父は、私が小学生の時に家を出て帰ってこない。母が野菜や魚の行商で稼いで私と妹を養ってくれている。最近村に来たプノンペン団体のエイズ検査で母がエイズに感染していることが分かった。

私は中学1年の時、学校の中にある食堂で皿洗いをした。

けれども勉強をしたい気持ちが強く我慢できなくなって、学校に戻った。成績は、始めのころ50人中45番だったが、学校に戻ったのだから「勉強をがんばる」と心に誓った。期末テストで1番を取れた、2年生の時も1年間を通して1番だった。

妹が中学生になった時、お金がないので、私はまた学校を辞めて、家のために働こうと思った。先生や友達も励ましてくれたので学校に残った。中学1年の終わりに、校長先生から「奨学金をくれる団体があるから、もう少し頑張れ！」と言われて嬉しかった。

本当に奨学金をもらえた時は「学校を辞めなくて良かった！

お金の心配をしなくて勉強が出来る。お米ももらえて、ご飯も食べられる」と母と一緒に喜んだ。これまで考えたことも無かった将来に、希望が湧いて心が明るくなってきた。

今の心配事は母のエイズと中学3年になる妹の事。妹の成績は学級1番で、勉強も続け高校にも行きたいと言っているが、お金がないのと母の世話のために学校を辞めなくてはならない。妹に全ての負担がかかっているの、申し訳ないと思っている。

◇私の1年間の成長

成績は、1年を通して中間・期末試験・総合成績で、3年生全員の中で1番を取っている。得意教科は、数学・物理・科学。努力している事は、母を助けて家事をすること、少しの時間でもあれば予習復習をしている。家に電気が無いので、朝早く起きて明るくなったら勉強している。

将来の夢は、中学校の先生になりたいが、まず高校で良い成績をとりたい。



ピツ・ウィ



お母さんとピツ・ウィ

■ラワ・ディ（女・フンセン・スワイトム高校1年・17才）

私は奨学金がもらえて、安心して学校に行けるようになった。授業にも集中できるし塾にも行ける。気持ちがとても楽になった。凄くうれしい。

今は62才のお祖母さんとシェムリアップで料理人をしているおじさん(母の弟)、中学1年の妹と4人でお祖母さんの家で住んでいる。お祖母さんは高血圧と糖尿病で働けない。おじさんも一生けん命働いている。私たちのご飯代やお祖母さんの薬代、通勤に使うオートバイ、家を建てた時の借金を返すので、生活は大変だと感じている。

高校1年になった時に、おじさんの負担を減らすためにシェムリアップの食堂でアルバイトを始めた。午後3時から11時まで働いて1ヶ月100\$もらっている。休みは週に1日。夜家に着くのは12時頃になる。水浴びをして、寝るのは1時頃。

朝6時には起きて学校に行く。1日5時間くらいしか寝られないので、時々頭がひどく痛くて起き上がれなくなる。それで去年は10日くらい学校を休んだ。

勉強する時間は、学校から帰って1時～2時。アルバイトに行く前にする。授業時間中に全て理解するように集中して勉強している。高校2年までアルバイトして、高校3年になったら辞めて、高校卒業試験に合格するように勉強する。

◇私の1年間の成長

成績は、中間試験・学級で6番、期末試験・学級で7番、年間を通して学級で7番、得意教科は、国語と数学。努力している事は、毎日働いているため家での勉強時間が1時間くらいしか取れない。もっと成績を上げたいと思って、今は精一杯努力している。

将来の夢は、国立シェムリアップ大学で勉強して、会計士になりたい。



ラワ・ディ



お祖母さんとラワ・ディ

■ニユン・ナイ(女・フンセン・スワイトム高校1年・16才)

奨学金をもらったので、家で払う私の学費の負担が無くなった。私は安心して学校に通え、奨学金をもらったことに感謝している。

父は、大工でシェムリアップの工事場で働いている。1日7\$の賃金を稼ぐ。毎日仕事が無い。

24aの田んぼと小さな畑を持っている。母は、田んぼで米を作っている。一家で1年間食べられる量の米がとれる。

父は読み書きが出来ない。母は小学校4年で辞めて農業をしている。子どもには高校までの教育をうけさせたいと話している。

私の家は7人家族で、子どもは5人。

兄はフンセン高校3年・成績は40人中30番位。姉は、フンセン高校1年・成績は中位、私と妹2人(中学1年と小学5年)。高校生が3人いて教育費にお金がかかる。

◇私の1年間の成長

成績は、中間・期末試験は学級で4番、年間を通して学級で4番。得意教科は国語。

努力している事: SSFCの奨学金をもらえたので勉強を頑張っている。勉強が楽しくなって、少し自信がついた。もっと成績が上がるように頑張る。

将来の夢は、師範学校を出て中学校の国語の先生になりたい。



ニユン・ナイ



お母さんとニユン・ナイ

受給生徒の退学者が出ました。

ソウ・クダイ(女・18才)は、フンセン・スワイトム高校を1年途中で退学のため奨学金給付終了。「昨年結婚して高校も辞めた。」と、ブローン・ブロン校長から聞きました。どこに住んでいるのか、校長先生も知らないとのこと。数学と物理が得意な生徒で勉強も良く出来、将来は物理の先生になりたいと夢を語っていたのに残念です。